

中野重治詩集

中野重治詩集

昭和六年九月三十日印刷 昭和六年十月五日發行 定價 40錢	中野重治詩集	著者 中野重治	發行兼印刷人 橋浦泰雄 東京外落合町四六〇	發行所 ナツブ出版部 東京市外落合町上落合四六〇 振替東京六〇六〇二番	大賣店 上田屋 栗田書店 東京堂 北隆館 大東館 東海堂
--	---------------	----------------	----------------------------------	--	---

共働印刷生産組合印刷

明治全集 近代文学館 昭和44年9月

自序

これは私の全詩集である。しかし八篇ほどの作品がぬけてゐるから完全な意味での全詩集ではない。ぬけてゐるものは『路傍の人々』『豪傑』『沖浪』『赤ん坊の歌』『新聞記者たち』『朝鮮人女學生の歌』『道路を築く』『彼の残した言葉』等である。このうち最初のものは、詩の方面での私の處女作ともいふべきもので、金澤市の小さな新聞にのつたことがある。『新聞記者たちに』は『文藝公論』といふ雑誌に、『朝鮮人女學生の歌』と『道路を築く』とは『無産者新聞』に、『彼の残した言葉』は雑誌『驢馬』に發表されたが、どれも今度手に入れることが出来なかつた。讀者のうちに氣のついた人があつて、このうちのどれ一つでもを私に送つてくれるならば私はよろこぶ。

かういふ訣で、この集は私の完全な意味での全詩集ではないが、現在まとめられる限り

ではやはり全詩集であり、したがつて私は、これだけの形で批判の前に立つものだ。さうして私は、私の詩作そのものは極めて小さなものでしかないが、その批判から引き出されて来るものがプロレタリア詩の發展に何かを貢獻し得るであらうといふ望みを捨てることは出来ない。なぜなら、私は労働者階級のなから出て來たものではなくて、動搖する小ブルジョアジーのなから出て労働者階級へと近づいて來たものだから。労働者階級外の階級から出て來た作家・藝術家が労働者階級に結びつく道を發見することは、非常に困難ではあるが不可能ではない、といふことをこの詩集が多少とも示してゐるならばこれをまとめた私の試みは満足する。

この詩集は制作年代に逆に編んであるから、第三部が最も古い。この第三部は雑誌「裸像」にかいてゐた時期、第二部は雑誌「驢馬」にかいてゐた時期、第一部はそれ以後の時期であつて、第二部から第一部へかけて私は労働者階級の方へ近づいて來た。そして作品はすべて一九二六年以後にかゝれてゐる。一九二七年以後の日本の詩は年鑑「日本プロレ

タリヲ詩集」を持つてゐて、そこには勞働者およびその他の勤勞者の詩の精粹が集められてゐるから、この詩集は「日本プロレタリア詩集」のエネルギーの從屬的部分である。したがつてこの集の作者としての私はすべての積極的な讀者・詩人に、この集を、一九二七年以來の「日本プロレタリア詩集」および一九二八年以後戦はされて來た詩論（上野壯夫、西澤隆二、森山啓等による）とあはせ讀んでくれることを希望する。

一九三一年九月

中野重治

中野重治詩集 目次

自序	一
----	---

I

今夜おれはお前の寢息を聞いてやる	一一
いよ／＼今日から	一六
雨の降る品川驛	一九
夜刈りの思ひ出	二三
待つてろ 極道地主めら	二七
無産者新聞第百號	三八

壁新聞をつくるソ同盟の兄弟……………四

法 律……………六

兵隊について……………七

新聞にのつた寫眞……………四

死んだ一人……………七

ボール・クロードル……………五

汽車 一……………五

汽車 二……………五

汽車 三……………五

萬年大學生の作者に……………六

II

新聞記者	充
帝國ホテル一	三
帝國ホテル二	六
無政府主義者	六
縣知事	八
掃除	八
機關車	四
歌	六
日々	八
新任大使着京の圖	六
ま夜中の蟬	三
思へる	三

東京帝國大學生……………	九五
夜明けまへのさよなら……………	九七
北見の海岸……………	一〇一
煙草や……………	一〇四

III

浪……………	一〇九
女西洋人……………	一一三
夜の挨拶……………	一二四
最後の箱……………	一二六
垣根にそうて……………	一二八
蠅……………	一三三

噴水のやうに……………	二三
はたきを贈る……………	二五
ぼ　　ろ　　切……………	二六
夜が静かなので……………	二八
水邊を去る……………	二九
今　　日　　も……………	三〇
私は月をながめ……………	三一
たんぼの女……………	三二
わ　　か　　れ……………	三四
挿木をする……………	三六
眼のなかに……………	三七
あかるい娘ら……………	三八

爪はまだあるか……………	一四八
しらなみ……………	一五〇
浦島太郎……………	一五二

I

今夜おれはお前の寢息を聞いてやる

今夜おれはお前の寢息を聞いてやる

おれはお前がお前の仕事に忠實であることを褒めてやる

おれが警察から警察へまはされてゐた時

お前はさゝやかな差入れ物をかゝへて次々とまはつて來た

それは白い卵を抱へて巢移りする蟻のやうだつた

しかしそのためお前がお前の仕事を少しでも怠るのであつたらば

お前の心づくしを受け取ることがおれに出來なかつたらう

やがておれが刑務所へまはされた時

お前はふたゝび手を振つてやつて來た
しかしもしお前が

おれ達のひき裂かれたことをお前の仕事を高めるモメントとしてゐるのでなかつたらば

おれは面會所で編笠を取ることが出來なかつたらう

お前はいつも仕事に忠實であつたし今も忠實である

お前は明日仕事を逐うて川越へ行く

お前は一人でさつさと仕度をし

今はかすかな寢息をたてゝゐる

おれはお前の寢息をかぞへ

お前の寢息の正確なことを褒めてやる

正確な寢息は仕事にまめくしいものゝものだ

お前はお前の仕事に常にまめやかに

それ一つでいゝ

かつてひき裂かれたおれ達はまたひき裂かれるかも知れない

しかしおれ達がおれ達の仕事にそれ／＼に忠實である限り

おれ達を本質的にひき裂くなものもない

すべての手段を奪つたものも献身による手段を奪ふことは出来ない

おれはお前の寝息をかぞへてその安らかなことを褒めてやる

未來にわたつて安らかにあれ

仕事に忠實であることの安心の上に立つて